

## PFAS(ピーファス)汚染について⑥

### 脱プラサークル 脱プラ子

神戸市が2月に実施した「明石川水系におけるフッ素化合物の状況」の結果が出ました。

堅田橋というところで、基準値の26倍の1300ナノグラムという値がでました。

この値は、やはり、産業廃棄物処理場の影響が濃厚だと思われます。昨年、11月に420ナノグラムなので、何の対策もされていないということでしょうか？

4月13日 西区文化センターで行われた「明石川の水があぶない」という集会に、参加してきました。

2023年10月、長年明石に住み、明石川の水を飲んでいた住民に対して、丸尾牧議員や小泉昭夫教授の行った血液検査に参加された方も登壇し、発言されていました。

「自分の身体のことにも気になるが、子どもたちへの影響がとても心配だ」と話されていました。

私は、今年の2月に明石川・伊川のPFAS汚染を明らかにする市民有志として、神戸市議会へ汚染源を特定するように陳情書を提出したこと。福祉環境委員会で、40分も議論されたが、結局、神戸市は「科学的な知見は得られていない。実際に被害など確認されていない」という趣旨の答弁だった。「1950年代のアメリカでの被害は、相当な濃度だったんですか？」と、疑問も投げかけました。

小泉昭夫教授は大きな声で「被害が出たら終わりです。駄目なんだ。また、同じことを繰り返さないために、予防原則があるのです」と、怒りを込めて話されました。

予防原則の大事さを改めて確認しました。



ブックレット 植田武智著